

研究活動の国際化について

日本学術振興会
理事 渡邊淳平

研究活動の国際化に向けた施策の柱



1. 研究人材の国際化・頭脳循環

- 国際的に活躍できる日本人若手研究者の育成
- 優れた外国人研究者の招へい

2. 国際的な共同研究への研究費の支援

3. ネットワークの強化

- 諸外国の学術振興機関とのネットワーク
- 研究人材のネットワーク

4. 大学等の研究環境の国際化

- WPI などのMEXTのプログラム

1. 研究人材の国際化・頭脳循環

1. 日本人研究者の海外への派遣

JSPS国際事業による派遣数: 約5,000名

○ 海外特別研究員

- ・ ポスドクレベルの若手研究者が海外の大学等研究機関で研究
- ・ 予算額約20億円、約250人×2年間
- ※ 同年代研究人材の約5%

※ 35～44歳 海外研究勤務経験あり: 10.7% (出典: NISTEP REPORT No.123)

○ 特別研究員の海外渡航 約700人／年

2. 外国人研究者の日本への招へい

JSPS国際事業による受入数: 約4,000名

○ 外国人特別研究員

- ・ ポスドクレベルの外国人若手研究者を最大2年間日本の大学等に受入
- ・ 予算額約35億円、約450人×2年間

3. その他特徴的な国際交流事業

HOPEミーティング・・・ノーベル賞受賞者と各国若手研究者との合宿形式の交流

FoS・・・二国間の異分野若手研究者の交流

課題

- ・ 採用人数の規模が小さい(外国人特別研究員採択率 10.1%)
- ・ 現状の採用期間(2年間)では研究期間として短い

2. 国際的な共同研究への研究費の支援



1. JSPSの国際研究交流支援事業

- ・ 二国間交流事業 10.2億円
- ・ 研究拠点形成事業 6.3億円

2. 科研費 H27予算額2,273億円

⇒ H27予算において、新たに「国際共同研究加速基金」を創設(H27予算額109億円)

- ① 研究者の6か月以上の海外滞在を支援し、国際研究ネットワークの形成を促進
- ② 新学術領域研究における国際共同研究の推進
- ③ 海外の優秀な日本人研究者の帰国の際の予約採択(スタートアップ支援)

⇒ 科研費論文のオープンアクセス化の推奨による国際発信の強化

課題 1

- ・ 海外で研究費が使いにくい（日本での使用のみを想定した会計管理設計の堅さ）
- ・ 外国人にとって使いにくい日本の会計年度（すべての科研費の基金化が必要）

2. 国際的な共同研究への研究費の支援

課題 2

- ・ 諸外国の研究費の増に追いついていないインプットの不足状況

最近10年前後のTop10%補正論文数のシェア(アウトプット)と科学技術予算、大学の研究者数等(インプット)の変化の関係

	日本 (☆)	日本 (※)	米国(※)	ドイツ (※)	フランス (※)	イギリス (※)	中国	韓国 (※)
Top10%補正論文 数のシェアの変化	▲35%		▲25%	▲4%	▲16%	▲18%	+380%	+91%
政府の科学技術予 算	+12%	—	+84%	+44%	+21%	+17%	+752%	+248%
大学部門の研究 費	+7%	▲9%	+96%	+55%	+61%	+93%	+678%	+204%
大学の研究者数	+10%	▲9%	—	+27%	+10%	—	+34%	+57%

注：※印の論文数以外のデータは、研究時間をフルタイム換算して算出(OECD統計の標準)
日本(☆印)の論文数以外のデータは、人件費をフルタイム換算する以前の数字

その他の課題

- ・ オープンアクセス化のための投稿料(APC)補助制度による国際発信力の強化？

3. ネットワークの強化

1. 海外学術振興機関とのネットワーク構築

① 二国間交流事業

- ・ 39ヶ国・57機関との覚書・協定に基づく交流の実施
- ・ オープン・パートナーシップ

② 欧州研究会議(ERC)・スイス(ETH Zurich)との若手研究者の交流

③ G8各国、欧州各国、米国NSF等との国際共同研究事業

2. 研究者ネットワークの支援

14ヶ国にJSPS同窓会を設置 会員 5,825名(平成26年度)

	ドイツ(1995年、357人)		東アフリカ(2008年、58人)
	フランス(2003年、465人)		韓国(2008年、446人)
	英国(2004年、483人)		バングラデシュ(2009年、103人)
	米国(2004年、751人)		フィンランド(2009年、74人)
	スウェーデン(2005年、148人)		タイ(2010年、43人)
	インド(2006年、317人)		中国(2010年、1207人)
	エジプト(2008年、40人)		フィリピン(2013年、143人)

課題

- ・ 約21,000人のJSPS外国人事業経験者全体のネットワーク化
- ・ 海外の日本人研究者コミュニティの把握とネットワーク化

4. 大学等の研究環境の国際化

○ 大学の国際化関連事業(MEXT事業)

- ① 世界トップレベル研究拠点プログラム(WPI)
- ② 博士課程教育リーディングプログラム
- ③ スーパーグローバル大学等事業 等

○ 成果事例

- 事務機構を含めた英語による研究環境の実現
- 研究者及びその家族への支援 等

課題

- 来日した外国人にとって研究しやすい環境を提供できているか？
= 日本人にとっても研究しやすい環境
(例えば) 共用設備の整備、研究支援者の配置 ……



そのための競争的資金の活用……合算使用の規制緩和など